

## 安芸区の特性、地域資源及び身近な課題について

### 1 特性について

- (1) 位置は、広島市東部にあり、府中町、海田町、熊野町及び坂町と境を接し、住民相互の交流や経済面、生活面での結び付きが深い。
- (2) 自然は、岩滝山や呉娑々宇山、水ケ丸山、小田山、鉾取山、絵下山などの山々に囲まれ、北東部から南西部にかけて瀬野川が貫流するなど、区民に憩いと潤いを与える豊かな自然環境を有している。
- (3) 地勢は、面積の約7割を山林が占めており、山の斜面まで住宅が折り重なるように建ち並んでいる。船越地区や矢野地区などの平地部でも、幹線道路をそれると道路が狭あいで、住宅がひしめき合うように建っている。瀬野及び矢野の両地区では、山間部を切り開いた大規模な住宅団地が造成されており、それぞれ新しいコミュニティが形成されている。
- (4) 交通は、本市都心部と東広島市方面を結ぶ国道2号及びJR山陽本線が、また、本市都心部と呉市方面を結ぶ国道31号及びJR呉線が通っている。
- (5) 人口は、約8万人と8区の中で最も少ない。年齢別では65歳以上の高齢者の割合が年々増えており、高齢化率は全市平均を上回り、8区中3番目に高い。
- (6) 産業は、他の区と比較して、工業や建設業などの第2次産業従事者が多く、また、海田湾沿いの埋立地には工業団地や流通団地が形成されており、経済情勢に応じて製造品出荷額や商品販売額等が増減するが、近年はいずれも増加傾向にある。

### 2 地域資源について

- (1) 瀬野川は、熊野川や畑賀川などの支川ともども、安芸区を特色付ける自然資源である。河川敷への遊歩道の整備もあいまって極めて親水性が高く、日頃からウォーキングや、ピクニック、水鳥や水生昆虫等の観察などで多くの市民が憩う場となっているほか、中野・中野東地区では住民自らが桜や芝桜を植栽し、維持・管理を行うなど、自然環境を生かした良好な景観・風致を形成している。また、河川敷広場では祭りや花火大会等が開催され、地域コミュニティの拠点として活用されている。

- (2) 区民まつりや区民スポーツ大会など全区民を対象とする文化・スポーツイベントは、旧4町村（船越町、瀬野川町、熊野跡村、矢野町）の地域住民が交流を深め、区民としての連帯意識を醸成する場となっている。
- (3) 瀬野川にほぼ沿うように、江戸時代の昔、京都と九州を結んだ『西国街道』が通っており、沿道には由緒ある神社仏閣などの史跡が点在するなど、郷土の歴史をうかがい知ることができる。

### 3 身近な課題について

- (1) 高齢化の進展に伴い、一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯が増加しており、清掃や買い物、ごみ出しなど日常生活面での支援のほか、災害時における避難支援の取り組み等が重要な課題となっている。
- (2) 町内会・自治会その他地域団体では、担い手の高齢化や慢性的な人材の不足に直面しており、持続的・継続的な活動が困難になりつつある地域団体が増えている。
- (3) 買い物先の大規模店舗志向やインターネット販売の活用、後継者不足等により、地域では商店が減っており、交通手段を持たない世帯、インターネットを利用しない世帯等が買い物難民化しており、日常の暮らしに大きな不便が生じている。また、こうした商店は、商品流通のみならず、地域のにぎわいづくりの面で果たす役割が小さくないことから、商店の減少は地域コミュニティの衰退に直結する問題として有効な対策が求められている。
- (4) 山々に囲まれた安芸区では、猪や鹿、猿などにより農地が荒らされる被害が続出しているほか、住宅街にも出没しており、園児・児童をはじめ住民の安全を脅かす存在として大きな社会問題となっている。
- (5) 少子高齢化や核家族化の進展、集合住宅の増加等による新旧住民の混在などにより、世代や地縁の異なる住民間の交流が乏しくなっており、地域コミュニティの維持が困難になっている。